

## 山口銀行のアジア進出：現状と課題

### 1. 環黄海経済圏を中心とした独自色の強い海外展開

当行は昭和 48 年に地方銀行として初の海外駐在員事務所を韓国の釜山に開設して以降、現在までに韓国・中国に 3 支店（釜山・青島・大連）、1 駐在員事務所（香港）を設けており、「環黄海経済圏」を中心に独自色の強い海外展開を行っています。韓国・中国の 3 支店では現地通貨（ウォン、人民元）を取扱っており、預金・為替・貸出業務の全てを行うフルバンキング体制を構築しています。

### 2. 「支店」方式による展開

中国本土には地方銀行 30 行以上が拠点を構えています。ほとんどが預貸金業務のできない駐在員事務所での進出で、現状、「支店」として営業しているのは当行と横浜銀行、名古屋銀行の 3 行のみです。また、人民元融資は他の地方銀行に先駆けて取扱いを開始しており（平成 16 年青島支店認可取得）、山口フィナンシャルグループ（山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行）の取引先のみならず、全国の地方銀行本部や駐在員事務所（中国）から当行に人民元融資の相談があり、既に青島・大連支店で 15 金融機関からスタンドバイ L/C（保証）の差入れを受け融資を取組んでいます。

### 3. 進出全段階をワンストップ支援

当行の海外進出支援の特徴は、これらの海外拠点と連携することで、海外進出に関する拠点設置場所の選定、事前視察、現地法人の設立手続き、販路開拓やビジネスマッチング、進出後の融資といった全ての段階の支援を、ワンストップで提供できることにあります。また、お客様の多様化・高度化する相談ニーズに対応するため、損害保険、証券、物流、警備等関連業界と国際業務提携を締結し連携を強化することでコンサルティング力向上を図っています。お客様のニーズ、悩みに対して最適なソリューションを提供し、それを通じて銀行のビジネス、収益の拡大に繋げていくことが我々の重要な課題になっています。

### 4. 国際交流

海外拠点における業務だけでなく国際交流にも力を入れており、昭和 61 年から下関市立大学の聴講留学生の受入れを開始し、聴講留学生は当行宿舎に滞在し大学に通っています。受入実績は青島・大連・タイ・トルコから延べ 151 人に上ります。

青島においては、平成 4 年より山口銀行杯日本語弁論大会を開催しており、青島市政府の幹部も来賓として参加します。また、「小さな親切」運動を通じた日中間の小学生交流支援も行っており、長年の日中友好親善を目的とした活動が評価され、青島支店は平成 25 年度外務大臣表彰を受賞しています。

### 5. チャイナプラスワンへの対応

当行でも海外進出に係る相談は依然として中国が多いのですが、中国での人件費上昇、労働力不足、日中関係の影響から、製造業を中心に中国以外の東南アジア諸国にも進出するチャイナプラスワンの動きが見られます。東南アジア諸国に当行海外拠点がなく、現地サポートや現地資金ニーズにどのように対応していくかが課題となりますが、当行では東南アジア諸国（タイ、インドネシア、フィリピン）の有力銀行と業務提携を行う一方、グループのもみじ銀行からは TMB 銀行（タイ）にトレーニー派遣も実施しています。また、現地資金ニーズに対しては、タイ現地法人向けの直接融資（クロスボーダーローン）や国際協力銀行との協調融資など具体的な取組み成果も上がっています。

今後も海外拠点を有効活用しながらアジアの成長を取り込み、地域経済の発展に資するよう海外事業を強化してまいります。

以上